

～ 阿佐谷図書館 実習報告 ～

東原中学校 2年生のレポートです。

9月24日（水）～9月26日（金）の3日間、図書館の仕事を体験しました。

☆取り組んだ仕事☆

- 予約資料の引き抜き
- 配架
- 書架整理
- 交換便（返却分）の処理
- 本の修理
- イベント用の工作
- レファレンス体験
- 雑誌の装備
- 紹介文作成

☆働いてみた感想☆

● 図書館には何度も来館したことがあり、どのようなお仕事をされているか興味があったので、どれも新鮮で楽しく体験することができて良かったです。
本の修理やブッカー貼り等とても細かい作業が多く、これをやっている職員の方々がすごいと感じました。

● 利用者側からすると、図書館での仕事は書架整理・配架・カウンターでの手続き以外ほとんどないと思っていましたが、実際に体験してみると、今挙げた仕事内容以外にも利用者が気持ちのよい状態で図書館から帰っていけるようにされていました。例えば、本を長持ちさせるための修理を行ったり、利用者が求めている本を希望する図書館で借りられるように、予約本の準備をしていたりしました。このおかげで私たちは読みたい本が読めていると、あらためて実感しました。

☆杉並の図書館について、どう思う？☆

● 絵本は、0～2歳が読みそうな本や3桁の数字（場所により4桁）で細かく分けられて棚にしまったり、913の本は作家さんごとに本の場所がわかりやすくなっていたり、本の配置についてしっかりと考えられていると思いました。

● 多くの本を借りることができ、取り寄せることもできるので、助かっています。

☆ おすすめの本を教えてください ☆

『君の嘘と、やさしい死神(ポプラ文庫ピュアフル)』

青谷 真未/著 (ポプラ社)

過去のトラウマから「嫌だ」と言うことができない主人公の太郎が運命の人と出会い、文化祭で落語をやることになってしまう。
甘酸っぱく切ない、青春の物語です。

『君に届け(コバルト文庫)』

椎名 軽穂/原作、下川香苗/著 (集英社)

性格は良いものの陰気な容姿のせいで、クラスメイトに怖がられている主人公の「黒沼 爽子」(通称: 貞子)が、クラス内の人気者「風早 翔太」によって、クラスのみんなと少しずつ誤解を解き、クラスになじめるように頑張るストーリーです。
些細なことにすぐ感動しているところや、嫌みで言われていても気づかず、ポジティブに捉えている場面が多くとても面白いです。